

指定管理者評価シート

一 管理運営の状況

1	施設名	仙台市子育てふれあいプラザ泉中央
2	指定管理者	一般社団法人マザー・ウイング
3	指定期間	平成21年4月1日から平成24年3月31日まで
4	施設の利用状況	<p>《利用者数》 45,641人(前年度比 60.9%)</p> <p style="padding-left: 20px;">内訳 ひろば利用者 34,630人 託児利用者 1,366人</p> <p style="padding-left: 20px;">中高生 8,594人 子育て支援者 315人</p> <p style="padding-left: 20px;">ホール利用 39件(736人) 視察等の来館者550名</p> <p style="padding-left: 20px;">平成21年度 66,145人 平成22年度 74,894人</p> <p>《事業》 子育てを行う市民に対する交流の場の提供, 子育てに関する相談, 情報提供等, 子育てを総合的に支援する事業</p>
5	収支の状況	<p>《費用》</p> <p style="text-align: right;">()は前年度決算額</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 指定管理者に支払った費用 52,622千円 (53,303千円) ・ その他市が負担した費用 0千円 (0千円) <p>《収入》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 使用料収入 2,921千円 (2,895千円) 託児料 <li style="padding-left: 20px;">141千円 (1,279千円) ホール利用料 ・ その他収入 260千円 (779千円)
6	利用者の声	<p>《実施状況》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 利用者の声を事業に反映させるための意見箱の設置 ・ イベント開催時に, 参加者に対してアンケートを実施

二 管理運営に係る評価

(モニタリングシートの結果によって評価)

評価分野	所見	評価
総則	仙台市子育てふれあいプラザの設置目的に基づいた基本方針を策定し, 掲示等により, 利用者に周知している。 管理運営をとおして, 子育てを総合的に支援し, 子育てが安心してできるまちの実現に寄与していることが認められる。	S
施設の運営管理体制	マニュアル整備, スタッフミーティングの徹底により, 職場内の意思統一を図っており, 適切に運営されていることが認められる。	S
施設・設備の維持管理	乳幼児親子が安全かつ快適に利用できるよう配慮し, 優れた維持管理を行っていることが認められる。	S
サービスの質の向上	乳幼児親子の視点に立ったサービスの提供を心がけており, 相談, 意見, 要望など, 利用者の声を反映した優れた運営を行っていることが認められる。	A
施設固有の基準	仕様書等に記載されている事業について, 適切に実施されている。さらに, 被災者支援の取り組みの充実を図るなど, 優れた取り組みが認められる。	S

三 その他特に評価すべき優れた取組み

(指定管理者の優れた取組みを評価する 加点要素)

評価すべき取組み		取組み状況
1		
2		
3		
加点点評価		

四 評価総括

《指定管理者（一般社団法人マザー・ウイング）による自己評価》
<p>指定管理の最終年度として仕上げの年度ととらえ全ての事業においてレベルを上げることを目標とした。</p> <p>残念ながら、震災によりもとの施設に戻るまでは十分な事業展開を行うことが出来なかった。しかしそれまでの制約が多い中でも与えられた条件を最大限に生かした施設運営が出来たと考えている。その中でこそ得られたことも多い。スタッフ一丸となって利用者に居ごちのよい場所づくりを行った。</p> <p>仮設の2か所での立ち上げに2回引越しを行い、大きなパワーが必要だった。仮設では、利用者のニーズを深くみ取って心のケア、無料託児、被災地支援の受入れ等を行った。</p> <p>それにも増して元に戻ることに大きなパワーが必要だった。3回目の引越しは休館日を入れてわずか二日での通常開館であった。しかも、その後わずか3ヶ月で元のような賑わいを取り戻すことが出来た。11月28日の通常開館後、おかえりな祭イベントなどを行いより日常を取り戻すことによって震災によって傷ついた心を癒す場づくりに心がけた。</p> <p>通常開館後、これまで十分に出来なかった中高生事業、支援者事業、ホール事業の立て直しを行った。</p> <p>中高生事業は、全国とのネットワークを広げるべく、視察も兼ねて横浜の研修に参加した。県内唯一の中高生の居場所として体制の確立を行った。震災後は、来館者は減少したが中高生の思いを実現するために「311プロジェクト」を立ち上げ、義援金を贈った。通常開館してからは、ホールを使っのバンドの練習を可能にしたところ利用が多くあった。おかえりな祭のイベントも中高生の自主的な活動に繋がった。新中学1年生に向けての見学会を実施し利用拡大を行った。ホームページもリニューアルして中高生が見やすいものとした。</p> <p>子育て支援者事業は、1月に活動見本市を行い、大きな成果が得られた。3月には、基礎研修を企画してたくさんの参加者があった。11月には、泉区家庭健康課と地域子育て支援者交流会を開催し、地域のネットワークづくりを支援した。全市的に「活動支援ののびすく」として認知度が高まっていると感じている。子育て支援は、これまでホームページが無かったので新規作成の検討を行った。24年度4月アップの予定である。</p> <p>ホール事業については、貸出し休止期間のブランクが大きく利用者が戻っていない状況である。今後の利用拡大のためにホームページを全面的に新しくした。設備の問題も大きい利用に対してのノウハウはついてきているので、丁寧に対応していきたい。</p>

《施設設置者（仙台市）による評価》	総合評価
<p>個人情報保護業務の強化、情報セキュリティマニュアルの整備など、実施水準向上のための意欲的な姿勢が見受けられる。</p> <p>震災発生後は、施設の被災により、11月末まで仮施設での運営を行うこととなったが、制約がある中でもサービス向上に努め、利用者の要望に的確に応え、利用者の立場に立った充実したひろば事業を実施していたことが認められる。</p> <p>また、通常開館後は、ひろば事業の充実に加え、仙台市で唯一の事業実施主体として、中高生の居場所事業・子育て支援者支援事業の立て直しを図るとともに更なる充実に努めたことも高く評価できる。</p> <p>あわせて、被災者のニーズを的確にとらえた被災者支援を行うほか、利用者の個別の相談にもきめ細やかに対応する等、総合的に優れた管理運営を行っていることが認められる。</p>	S

評価担当課（施設所管課）： 子供未来局子供育成部子育て支援課